

特集

カリキュラムを「拡張」しよう！

準正課教育を活かして、カリキュラムを広くとらえよう

山田剛史

カリキュラム「外」の活動をカリキュラムと結びつける

ために 近藤麻理

自己判断力を高める研修旅行

片岡和江

臨床を視野に入れた接遇教育

高塚由香里

委員会活動が生み出す教室の力

佐々木美奈子

【連載】

笑いの伝道師 W マコトのコミュニケーション革命！・3 W マコト

臨床教育学 わからないこととの出会い・3 遠藤野ゆり

看図アプローチへの招待・3 鹿内信善／徳永基与子ほか

アジア、アフリカ、ラテンアメリカの看護教育はいま・12

亀井緑

宮子あずさのエキサイティング Writing・15 宮子あずさ

“医療安全力”を育むリスクアセスメントトレーニング・23

斉藤奈緒美／石川雅彦

編集後記

●どの職業においても、規範となる考え方はあるものです。看護に「看護観」があるように、雑誌の編集においても「編集観」というものはあります(たぶん)。ただ、学校の講義などから学び、つかみとるものではなく、仕事をしながら自ら培っていくものだと思います。もちろん、先人の仕事から「編集観」を継承することもあります。直導的な関係でない限りは、個々人の感覚や判断のほうが重要となるでしょう。●実は弊誌には、一般の雑誌で言われる「編集長」が存在しません。所属課の課長とともに、各号の特集担当者が編集長的作用を担います。なので、各号の特集を見ると、担当者の「編集観」が読み取れるのではないかと思います。長年の読者でしたら、今回は○○が担当したとまでおわかりになるかもしれません。そのような視点でも誌面を楽しんでいただければ幸いです。……大野

●「看護観」を特集するにあたって、それぞれの先生の具体的なエピソードを中心に語っていただきました。やはり、「看護観」はお題目ではなく、積み重ねられた経験や試行錯誤の蓄積から語られるものでしょうし、そしてそれは読み解かれ、形が変わっても受け継がれてこそ、意味をもってくるのではないのでしょうか。読者の方々にも、きっとどなたかの「看護観」を強く感じた瞬間があることだと思います。●「○○観」というと、最近、5年間暮らした阿佐ヶ谷から西荻窪に引っ越しました。すぐ近くなので、同じような町と思われがちですが、飲み屋の方々とお話をしていると、それぞれの「阿佐ヶ谷観」「西荻観」を語ってくれます。人々の西荻観は重なるところもありながら、少しずつ異なっていますが、何より、皆さん楽しそうに話してくれるので、ゆるやかに私にも西荻観が生まれてきました。……番匠

◎編集室ツイッター

<http://twitter.com/KANGOKYOIKU>

看護教育 第57巻 第2号 2016年2月25日発行(毎月1回25日発行)

Published by IGAKU-SHOIN Ltd. 1-28-23 Hongo, Bunkyo-ku, Tokyo © 2016, Printed in Japan

(1部) 定価: 本体1,500円+税

2016年・年間購読料(増大号を含む12冊): 冊子版15,540円, 冊子+電子版/個人18,540円, 冊子+電子版/共有20,880円, 電子版/個人15,540円, 電子版/共有17,880円(いずれも+税, 送料弊社負担)

発行: 株式会社医学書院 代表者: 金原 優 〒113-8719 東京都文京区本郷1-28-23 販売部 TEL: 03-3817-5659

『看護教育』編集室 TEL: 03-3817-5776 メールアドレス: kankyou@igaku-shoin.co.jp 担当: 番匠・大野・早田

本誌に掲載する著作物の複製権・翻訳権・上映権・譲渡権・公衆送信権(送信可能化権を含む)は(株)医学書院が保有します。

本誌を無断で複製する行為(複写、スキャン、デジタルデータ化など)は、「私的使用のための複製」など著作権法上の限られた例外を除き禁じられています。大学、病院、診療所、企業などにおいて、業務上使用する目的(診療、研究活動を含む)で上記の行為を行うことは、その使用範囲が内部的であっても、私的使用には該当せず、違法です。また私的使用に該当する場合であっても、代行業者等の第三者に依頼して上記の行為を行うことは違法となります。

JCOPY 出版者著作権管理機構 委託出版物

本誌の無断複製は著作権法上の例外を除き禁じられています。複製される場合は、そのつど事前に、出版者著作権管理機構(電話03-3513-6969, FAX03-3513-6979, info@jcopy.or.jp)の許諾を得てください。0047-1895/16/紙: ¥500/電子: ¥750/論文/JCOPYが本誌の頁表記に並んで記されているのは、1論文1回複製につき紙は500円、電子版は750円を要することを明示したものです。表示のない論文などにも適用されます。JCOPY宛にご連絡いただく際には、筆頭著者名と併せて本表示をご提供くださるようお願いいたします。

『看護教育』は、株式会社医学書院の登録商標です。

Vol.57 No.1

2016 年 1 月
特集

形・型・可で 技術教育の「安楽」を考えよう！

看護教育においては、理論や思考はもちろん大事ですが、実践家を育てるという意味でもっとも求められるのが技術ではないかと思えます。いかにその技術を教育するかを多くの先人が考え、試し、確立してきました。メディアの発達により情報を得る手段は、絵から写真へそして画像へと進化し、再現性、継続性のアップが図られてきた結果、技術教育はある程度成熟した感があります。にもかかわらず、臨床現場からは看護の基礎技術など内容の崩れが目立つという声も聞かれます。結局、いくら教育内容が充実していても、実際にそれに費やす時間やエネルギーが不足しているのではないのでしょうか。そんな今だからこそ、技術教育の重要性を見直そうと組まれたのが今回の特集です。武谷三男が提唱した、技術の三段階論「形・型・可」という枠を通して、看護師がその専門性をもっとも発揮し得る「安楽」を、教育現場にどのように取り込んでいけばいいかを考えます。「安楽」という単語は一般的な言葉ですが、実は日常ではあまり用いられないもの。だからこそ、ここに看護の原点があるのではないのでしょうか。

- 安楽を図る技術の習得教育 形・型・可に添って……………川嶋みどり
- 技術教育にいま足りないもの ロールモデルとしての姿勢から……………水澤晴代
- 看護基礎教育における技術の習得過程と安楽の意識化……………水戸優子／山口みのり
- 「非」と「安楽」 看護技術教育における「可」の姿……………阿保順子



Vol.56 No.12

2015 年 12 月
特集

グラフィック・シラバスとカリキュラム・マップ 授業とカリキュラムを「見える化」しよう！

シラバスとカリキュラムは、教育においてはなくてはならないものです。両者とも、組織で「教育」を行う場合は、正確に作成しておく必要があります。注意しなくてはならないのは、その内容が理解できるようにつくる必要があることです。実際に授業を行う本人はもちろん、他の先生方、学生、そして作成意図によっては外部の人にも理解できなくてはなりません。それには、「見える化」することが効果的です。とはいえ、看護教員自身が、シラバスやカリキュラム作成に積極的にかかわらなかった時代は、それほど昔のことではないでしょう。そんななか、本特集では、グラフィック・シラバスとカリキュラム・マップという新しいツールを紹介し、それらによって授業やカリキュラムをデザイン化、「見える化」することで何が得られるのか、逆にそうしないと得られないものは何なのか、また、その「見える化」するにはどのような準備が必要かについて、具体的な例を挙げながらご紹介します。多くの人に理解してもらえるシラバスやカリキュラムづくりは、多くの人に理解してもらえる授業につながります。ぜひチャレンジしてみてください。

- 【座談会】教育を「見える化」することで見えてくるもの……………佐藤浩章／八重樫文／志水良／川崎有紀
- グラフィック・シラバスでめざす授業改善 (1)看護学概論……………日下部華苗
- グラフィック・シラバスでめざす授業改善 (2)母性看護学……………川崎有紀
- カリキュラム・マップの作成とその効果……………小林直人
- マッピングによる看護カリキュラムの可視化……………野口真弓



(本特集のグラフィック・シラバスやカリキュラム・マップの図は、電子版ではカラーで御覧になれます)

【2015 年 11 月号 (Vol.56 No.11)】

学生の答え、ちゃんと待てますか 今こそ知りたいファシリテーションの心構え

【2015 年 8 月号 (Vol.56 No.8)】

グループワークを「本物」にしよう！

【2015 年 10 月号 (Vol.56 No.10)】

あらためて How to ロールプレイ！

【2015 年 7 月号 (Vol.56 No.7)】

看護過程再考

【2015 年 9 月号 (Vol.56 No.9)】

「看護研究」で実践力を鍛える

【2015 年 6 月号 (Vol.56 No.6)】

「つまらない」授業よ、さらば！

バックナンバーのご注文・在庫照会について

- 2013 年 12 月号 (Vol. 54, No.12) 以前の号は、東亜ブック (TEL.03-5947-4781, FAX 03-3923-4539, <http://www.toabook.com/>)
- 2014 年 1 月号 (Vol. 55, No. 1) 以降の号は、医学書院販売部 (TEL.03-3817-5659) にお願いします。